

2014年7月3日
株式会社 リクルートマーケティングパートナーズ

リクルート進学総研

将来の社会が明るいと思う高校生は49%、 景気回復の期待などから2012年の1.6倍に増加

～76%の高校生が「現在幸せ」～

－高校生の社会観・世代観・グローバル化と地元志向「高校生価値意識調査2014」－

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都千代田区 代表取締役社長 富塚 優）が運営する、高等教育機関、高校生、進路選択に関する各種調査や社外に向けての情報発信を行う、リクルート進学総研（所長：小林 浩）は、高校生の社会観・キャリア観・進学観・ライフデザインに関する調査「高校生価値意識調査」を実施いたしました。この度調査結果がまとまりましたので、一部をご報告いたします。

高校生の社会観

■ 将来の社会が明るいと思う高校生が前回調査（2012年）の31%から増加し、49%となった。しかし依然として52%の高校生は社会不安を抱いている。

- ・ 社会人になるころの社会は明るい 2009年:39.1%→2012年:31.0%→2014年:48.5%
- ・ 社会人になるころの社会 明るい：48.5% < 明るくない：51.5%
- ・ 社会が明るいと思う理由は、東京オリンピックやアベノミクス効果による景気回復への期待。一方明るくないと思う理由は、少子高齢化や就職難などへの不安。

■ 一方、自分の将来が明るいと思う高校生も前回調査（2012年）の55%から増加し、64%に。また、76%の高校生が「現在幸せである」と感じている。

- ・ 自分自身の将来 明るい：63.7% > 明るくない：36.3%
- ・ 現在幸せだと思う：75.9% > 幸せではない：19.5%

高校生の世代観

■ 自分たちの世代の「強み」は、「インターネット」（4%）がトップ。一方で、「弱み」のトップは、「ゆとり教育」（22%）となった。 ※自由記述のコーディング集計

グローバル化と地元志向

■ グローバル化は自分に関係あると認識している高校生は72%だが、海外で働きたいと考えている高校生は23%にとどまる。海外で働きたいと思わない理由のトップは“語学力不足”（62%）。

- ・ グローバル化は自分に関係がある 2012年：74.4% → 2014年：72.0%
- ・ 将来、海外で働きたいと思う：23.1%

■ 一方、地元の学校に進学したい高校生は46%と、出たいと考える高校生（28%）を上回る。地元に残りたい理由のトップは“経済的理由”（58%）。

- ・ 進学する際は地元に残りたい：45.5% > 地元を出たい：27.7%

※出版・印刷物へデータを転載する際には、“「高校生価値意識調査2014」リクルート進学総研調べ”と明記ください。
リクルートマーケティングパートナーズではこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここにいる、出会い。」を届けることを目指していきます。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ広報担当
https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

【調査概要】

■調査名

高校生価値意識調査

■調査目的

高校生の将来イメージおよび進路選択に対する価値意識を把握する。

■調査期間

2014年4月4日（金）～4月8日（火）

■調査方法

インターネット調査

■調査対象

2014年3月時点の高校1～3年生のうち、進学希望者

株式会社マクロミルのモニター会員のうち、2014年3月時点の高校生を対象にスクリーニング調査を実施し、下記の①もしくは②に該当した者、を調査対象とした。

- ①2014年4月現在、高校2年生、3年生で大学・短期大学・専門学校いずれかへの進学を検討している男女。
- ②2014年4月現在、高校既卒者で、高校時代に大学・短期大学・専門学校いずれかへの進学を検討したことがある男女。

・対象数は条件に該当した者から、平成25年度学校基本調査（確定版）の「全日制・本科生徒数（県別）」を基に、関東／東海／関西／その他エリアの4つのブロック別に、回収数が実際の生徒数の比となるように設定した。

関東エリア：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

東海エリア：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

関西エリア：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

その他エリア：上記以外の都道府県

■集計対象数

1,438人

・関東エリア、東海エリア、関西エリア、その他エリアそれぞれにおいて、平成25年度学校基本調査（確定版）から、当該年度の学生数の男女構成比を算出し、エリア毎の男女構成比を補正している。

	【回収実数】 ウェイトバック前			ウェイト値		【補正調査数】 ウェイトバック後		
	全体	男子	女子	男子	女子	全体	男子	女子
全体	1,438	444	994			1,438	722	716
関東	448	131	317	1.702	0.700	445	223	222
東海	175	49	126	1.776	0.690	174	87	87
別	242	85	157	1.412	0.758	239	120	119
その他エリア	573	179	394	1.631	0.731	580	292	288

※2012年の調査方法、および調査対象は2014年と同じ

※2009年調査について

・調査方法 郵送調査

・調査期間 2009年4月8日（水）～4月22日（水）

・調査対象 株式会社カルチュア・コンビニエンス・クラブのモニター会員のうち、高校2年生、3年生、新大学1年生の男女。

・集計対象数 1,273人

関東エリア、東海エリア、関西エリア、その他エリアそれぞれにおいて、当該年度の学生数の男女構成比を算出し、エリア毎の男女構成比を補正している。

【集計対象者プロフィール】

■ 高校所在エリア（全体／単一回答）

(%)											
		関東	東海	関西	その他 エリア	北海道	東北	甲信越	北陸	中国・ 四国	九州・ 沖縄
全体	(n=1438)	30.9	12.1	16.6	40.3	6.0	6.9	5.3	3.1	8.6	10.5

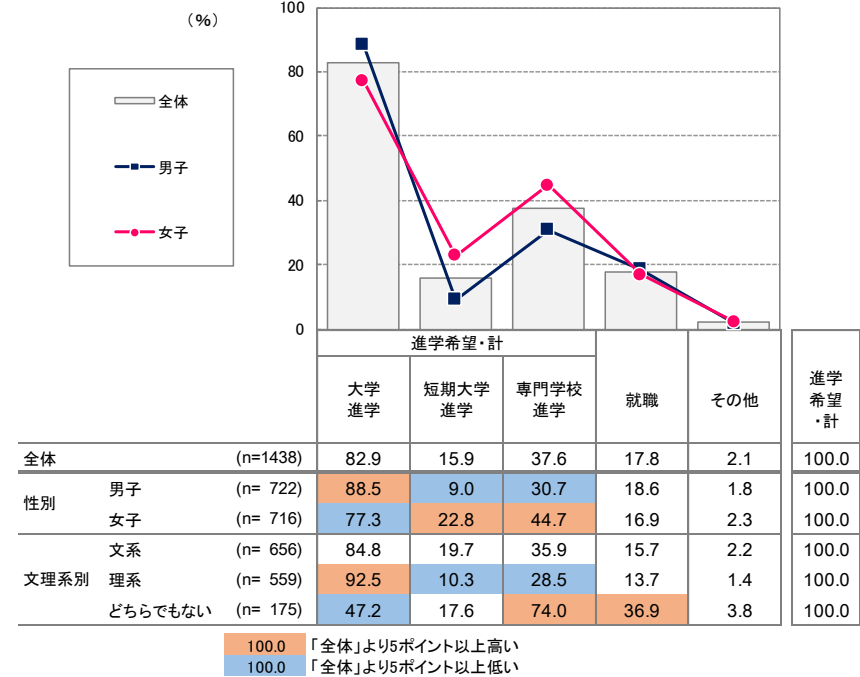
■ 現在（2014年4月）の学年（全体／単一回答）

(%)		3月卒業生							3月 卒業生
		高校 2年生	高校 3年生	大学 1年	短期大学 1年	専門学校 1年	浪人生	就職 (社会人)	
●凡例									
全体	(n=1438)	32.7		34.7		19.5	1.8	3.0	32.6
							6.8	1.5	

■ 性別（全体／単一回答）

(%)		男性	女性
●凡例			
全体	(n=1438)	50.2	49.8
文系	(n= 656)	34.6	65.4
文理系別 理系	(n= 559)	70.6	29.4
どちらでもない	(n= 175)	37.5	62.5

■ 高校卒業後の希望進路（全体／複数回答）



※高校2年生・高校3年生に関しては回答時点での希望進路、卒業生に関しては高校在学時の希望進路

■ 将来の社会が明るいと思う高校生の割合が前回調査（2012年）の31%から増加し、49%となった。しかし依然として52%の高校生は社会不安を抱いている。

- ・ 社会人になるころの社会の明るさ
 明るい 2009年：39.1%→2012年：31.0%→2014年：48.5%
- ・ 社会人になるころの社会の明るさ
 2014年 明るい：48.5% < 明るくない：51.5%
- ・ 男女別にみると、女子より男子の方が「明るい」と答えている割合が高い。
 明るい 男子：52.6% > 女子：44.3%
- ・ 社会が明るいと思う理由は、東京オリンピックやアベノミクス効果による景気回復への期待。一方明るくない理由は、少子高齢化や就職難などへの不安。

■ 社会人になるころの社会の明るさ（全体／単一回答）

	(%)	明るい計		明るくない計		無回答		明るい・計	明るくない・計
		明るい	やや明るい	あまり明るくない	明るくない				
▼時系列 結果	凡例								
2014年 全体	(n=1438)	10.0	38.5	41.2	10.3	-		48.5	51.5
2012年 全体	(n=1239)	6.3	24.7	51.0	18.0	-		31.0	69.0
2009年 全体	(n=1273)	14.5	24.5	44.5	16.2	0.2		39.1	60.7
▼2014年 結果									
2014年 全体	(n=1438)	10.0	38.5	41.2	10.3	-		48.5	51.5
性別 男子	(n= 722)	10.7	41.9	37.4	10.0	-		52.6	47.4
性別 女子	(n= 716)	9.2	35.1	45.1	10.6	-		44.3	55.7

《フリーコメント》

- 明るい：
- 「私が社会人になるころには東京オリンピックが近いため、景気はいいと思う」
 - 「アベノミクス効果でなんかいい感じになってそうだと思うから」
 - 「景気回復の兆しがみえ、就職難が今よりは解消されていると考えるため」
 - 「消費税が値上がりしたことで、少しは経済がうるおうのでは？と考えたから」
 - 「社会は今よりもっと国際化していて外国との理解が深まっているだろうと思うから」
- 明るくない：
- 「少子高齢化が進む日本で人口がどんどん減っているのに期待なんかできない。景気が良くなるのも一瞬だけ」
 - 「アベノミクスなどが話題になったけれど、自分や自分の周りで景気が良くなったと感じたことがないから」
 - 「不景気による就職難や、デフレ脱却ができていないか不安。震災による被害からの復興は進んでいるかなど」
 - 「消費税が10%まで上がり、景気が悪くなりそうだなあと感じる」
 - 「生まれてから明るい社会というものを味わったことがないから全くイメージできない」

【高校生自身の将来と現在について】

■一方、自分の将来が明るい考える高校生も前回調査（2012年）の55%から増加し、64%に。明るいと思わない高校生（36%）を上回った。
また、76%の高校生が「現在幸せである」と感じている。

- ・自分自身の将来の明るさ
 明るい 2009年：74.6%→2012年：55.3%→2014年：63.7%
- ・自分自身の将来の明るさ
 明るい：63.7% > 明るくない：36.3%
- ・現在幸せだと思う：75.9% > 幸せではない：19.5%

■自分自身の将来の明るさ（全体／単一回答）

		明るい計		明るくない計		無回答		明るい ・計	明るくない ・計
		明るい	やや 明るい	あまり 明るくない	明るくない				
▼時系列 結果		凡例							
2014年 全体	(n=1438)	15.0	48.7	30.8	5.5	-		63.7	36.3
2012年 全体	(n=1239)	15.4	39.9	36.0	8.7	-		55.3	44.7
2009年 全体	(n=1273)	30.6	44.0	20.8	4.3	0.2		74.6	25.2
▼2014年 結果									
2014年 全体	(n=1438)	15.0	48.7	30.8	5.5	-		63.7	36.3
性別	男子 (n= 722)	13.4	50.8	30.0	5.8	-		64.2	35.8
	女子 (n= 716)	16.6	46.7	31.5	5.2	-		63.3	36.7

«フリーコメント»

明るい：
「経済は上向きで、自分の気持ちも上向きになると思うから」「就職しやすくなっていると思うから」
「自分は将来の目標に対して勉強をしているので理想に近づけるのではないかと考えているから」
「自分のことは自分が頑張れば明るくなるはずだから」
明るくない：
「社会がどうなるかわからないうえに、私自身は将来何をしたいかわからないから」
「高収入を望めるような大学には行けそうにないから」
「ラストゆとりだから」「ゆとり世代だからと言って厳しくされそう」

■今、「幸せ」だと思うか（全体／単一回答）

		幸せ計		幸せではない計		考えたことがない		幸せ ・計	幸せ ではない ・計
		幸せだと思う	どちらかという 幸せ だと思う	どちらかという 幸せ ではないと思う	幸せではないと思う				
凡例									
2014年 全体	(n=1438)	25.8	50.1	10.9	8.5	4.6		75.9	19.5
性別	男子 (n= 722)	25.5	49.0	11.2	9.0	5.2		74.6	20.2
	女子 (n= 716)	26.1	51.2	10.6	8.1	4.0		77.3	18.7

«フリーコメント»

幸せ：
「毎日おいしいご飯を食べて、温かい布団で寝て、自分専用の広い部屋もある。やりたいことは自由にやらせてもらっているし、学校生活も充実しているから」
「友達にも恵まれ、愛してくれる家族がいて、大好きな人に囲まれているから」
幸せだと思わない：
「家が裕福でないのでバイトを掛け持ちしたりあまり時間に余裕がないから」
「やりたいことがあっても、やる気がでない。自分がどうしたいのか、どうありたいのかもわからないから将来が不安」

【高校生が自覚する世代の強みと弱み】

■自分たちの世代の「強み」は、「インターネット」（4%）がトップ。一方で、「弱み」のトップは、「ゆとり教育」（22%）となった。

※自由記述を内容によりコーディングしたものを定量的に集計。

- ・高校生が考える自分たちの世代の「強み」は「インターネット・ネット」（4%）がトップ。ITスキルに対しては自信を持っていることがわかる。
- ・「弱み」のトップは「ゆとり・ゆとり教育・ゆとり教育世代」（22%）となっている一方で、強みの6位に「脱ゆとり教育・新学習指導要領」（2%）が挙げられており、ゆとり教育の存在が高校生の自己認識に影響を与えていることがわかる。

■自分たちの世代の「強み」

順位	強み	2014年 % (n=1438)	2012年 % (n=1043)
1	インターネット・ネット(を通じた情報収集)	4.3	3.3
2	IT・情報化社会(とりまく環境)	4.2	7.2
3	パソコン・携帯電話・デジタル・電子機器 (ツールとして使いこなせる)	3.3	4.6
4	発想力・独創性	2.7	2.2
5	若さ	2.4	5.4
6	脱ゆとり教育・新学習指導要領	2.3	*
7	柔軟性	2.0	2.3
8	協力・協調性	1.9	0.4
	ゆとり教育・ゆとり教育世代	1.9	1.5
10	情報の収集力・伝達力	1.8	0.9

※「脱ゆとり教育・新学習指導要領」: 2012年の回答はなし

■自分たちの世代の「弱み」

順位	弱み	2014年 % (n=1438)	2012年 % (n=1043)
1	ゆとり・ゆとり教育・ゆとり教育世代	22.4	25.0
2	精神的な弱さ・根性がない・ストレスに弱い	4.7	2.7
3	学力・学習不足・知識不足・頭が悪い	4.5	8.6
4	諦めやすい・我慢できない・忍耐力	3.9	3.5
5	コミュニケーション・会話が下手	3.2	2.8
6	社会的評価(認められない・馬鹿にされる)	2.5	2.2
7	打たれ弱い	2.3	3.4
	言われた事しかやらない・指示待ち・自主性や 主体性がない	2.3	0.3
	人間関係・友達付き合いが下手	2.3	0.9
10	常識がない・ルールを守らない	2.0	1.8

《フリーコメント》

・インターネット・ITについて
「スマートフォンが普通の世代なのでインターネットからの情報収集は強い」
「情報の豊かさ、情報を得ることに対しての速さ」
「情報テクノロジーを用いた新しい価値を創出できると思う」

・脱ゆとり教育について
「ゆとり教育の終わったすぐ後の世代だから人としてしっかりしていると思う」
「新教育課程最初の世代だから、基礎学力は高い」
「ゆとり教育になったり、途中で普通になったりしてるから、色々なことに柔軟に対応できると思う」

・その他
「生まれる前に阪神淡路大震災、高校進学前に東日本大震災を経験し、人と人とのつながりを考えられる機会を他の世代に比べ与えられた」

《フリーコメント》

・ゆとり教育について
「かすかなゆとり世代なので、他の世代に学力が劣ると思う」
「ゆとり教育に少しかぶっていて、社会に出てからは年齢層がさまざまなので、大変だと思う」
「厳しい社会なのにラストゆとりなので後輩に抜かされる」
「ゆとり世代というだけで軽視されてしまうことがある」

・精神的な面について
「人同士の衝突に弱いこと。怒られ慣れていないこと。失敗を恐れること」
「ルールや例などを示してもらわないと行動できない、打たれ弱い」
「自分で行動したり発信したりする力が弱い」
「ゆとり教育なので、なんとなく我慢強さとか根性とかが少ないような気がする」

【社会で必要とされる力について】

■ 高校生が、今後社会で必要となると思っている能力は、「主体性」「実行力」「発信力」といった、主体的に意見を伝え、目的に向かって行動する力であるが、実際に持っている力としては、「傾聴力」「規律性」「柔軟性」といった、相手の意見や立場を受容する能力が高い。

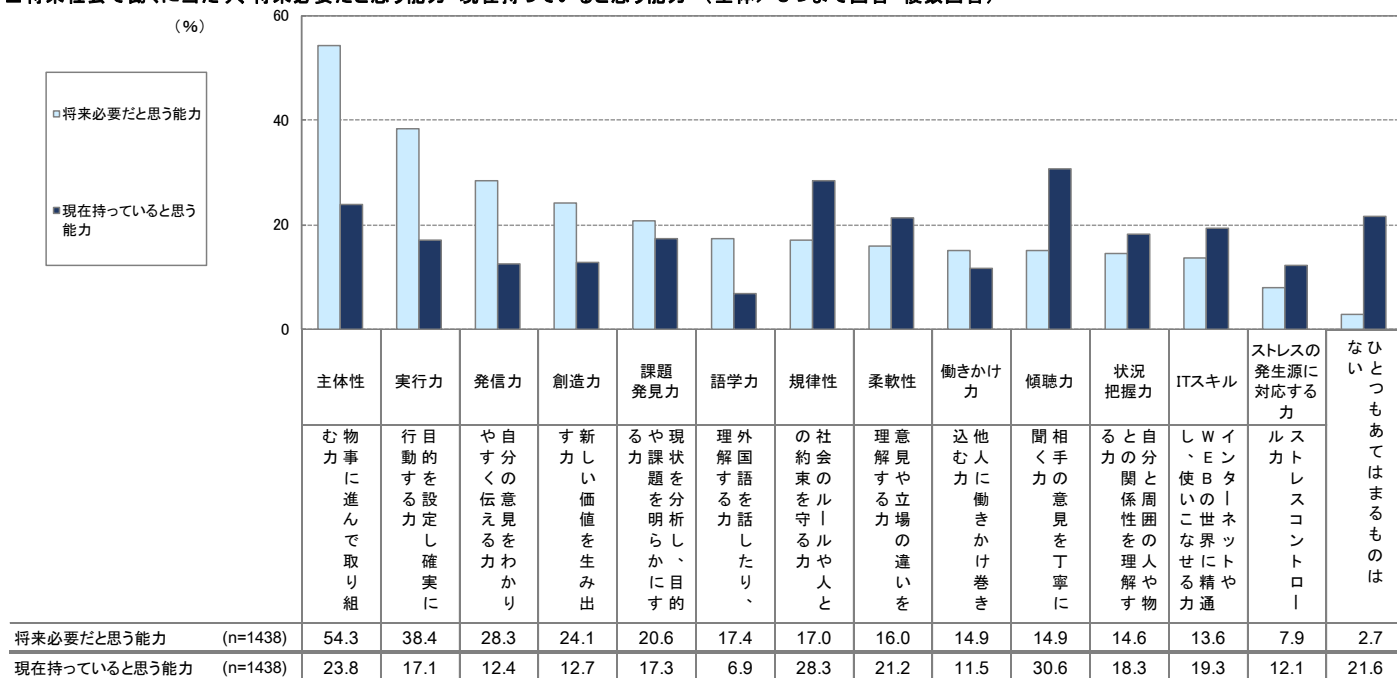
・ 将来社会で働くにあたり、必要とされる能力

1位：主体性（54.3%） 2位：実行力（38.4%） 3位：発信力（28.3%）
4位：創造力（24.1%）

・ 現在持っていると思う能力

1位：傾聴力（30.6%） 2位：規律性（28.3%） 3位：主体性（23.8%）
4位：柔軟性（21.2%）

■ 将来社会で働くに当たり、将来必要だと思う能力・現在持っていると思う能力（全体／3つまで回答・複数回答）



▼ 将来必要だと思う能力（全体／3つまで回答）

2014年 全体	(n=1438)	54.3	38.4	28.3	24.1	20.6	17.4	17.0	16.0	14.9	14.9	14.6	13.6	7.9	2.7
性別 男子	(n= 722)	53.6	40.0	23.3	26.8	23.3	16.0	12.3	17.7	16.0	11.3	14.1	18.1	6.7	3.0
性別 女子	(n= 716)	54.9	36.7	33.3	21.4	17.9	18.9	21.8	14.4	13.8	18.4	15.1	9.0	9.1	2.3

▼ 現在持っていると思う能力（全体／複数回答）

2014年 全体	(n=1438)	23.8	17.1	12.4	12.7	17.3	6.9	28.3	21.2	11.5	30.6	18.3	19.3	12.1	21.6
性別 男子	(n= 722)	23.2	16.2	12.1	13.5	18.7	5.9	23.4	17.5	10.6	26.2	16.4	25.4	12.4	21.9
性別 女子	(n= 716)	24.4	18.0	12.8	11.9	15.9	7.9	33.3	24.9	12.4	35.0	20.2	13.1	11.7	21.3

※将来必要だと思う能力「全体」の降順

100.0 将来必要だと思う能力／現在持っていると思う能力：それぞれの「全体」より5ポイント以上高い

100.0 将来必要だと思う能力／現在持っていると思う能力：それぞれの「全体」より5ポイント以上低い

【グローバル化への意識】

■グローバル化は自分に関係あると認識している高校生は72%。外国語を学ぶ必要性を感じている高校生も83%だが、海外で働きたいと考えている高校生は23%にとどまる。

- ・グローバル化は自分に関係がある 2012年：74.4% → 2014年：72.0%
- ・日本語以外の言語を学ぶ必要性がある 2012年：85.4% → 2014年：82.6%
- ・将来、海外で働きたいと思う：23.1%
- ・男女別にみると、グローバル化を意識しているのは男子の方が高いが、言語の習得や海外での勤務という行動面になると、女子の方が高くなる。

■「グローバル化」と自分の関係（全体／単一回答）

	(%)	関係あり□計		関係なし□計		“グローバル化” という言葉聞いた ことがない		関係あり ・計	関係なし ・計
		とても 関係があると思う	少しは 関係があると思う	あまり 関係がないと思う	全く 関係がないと思う				
▼時系列 結果	凡例								
2014年 全体	(n=1438)	19.4	52.6	23.3	3.4	1.3		72.0	26.7
2012年 全体	(n=1239)	20.8	53.6	21.2	2.6	1.7		74.4	23.8
▼2014年 結果									
2014年 全体	(n=1438)	19.4	52.6	23.3	3.4	1.3		72.0	26.7
性別	男子	(n= 722)	20.8	53.7	21.5	2.9	1.1	74.5	24.4
	女子	(n= 716)	18.0	51.5	25.2	3.8	1.5	69.5	29.0

■日本語以外の言語を学ぶ必要性（全体／単一回答）

	(%)	必要□計		どちらともいえない	必要ではない□計			必要 ・計	必要では ない
		とても 必要	ある程度は 必要		あまり 必要ではない	全く 必要ではない			
▼時系列 結果	凡例								
2014年 全体	(n=1438)	36.4	46.1	12.6	3.7	1.1		82.6	4.9
2012年 全体	(n=1239)	36.8	48.6	9.1	4.1	1.5		85.4	5.6
▼2014年 結果									
2014年 全体	(n=1438)	36.4	46.1	12.6	3.7	1.1		82.6	4.9
性別	男子	(n= 722)	36.0	44.6	14.3	4.0	1.2	80.6	5.2
	女子	(n= 716)	36.9	47.6	10.9	3.4	1.1	84.6	4.6

■将来、海外で働きたいと思うか（全体／単一回答）

	(%)	働きたい□計		どちらでもよい	働きたくない□計			働きたい ・計	働きたく ない ・計
		働きたい	できれば 働きたい		あまり 働きたいと思わない	働きたいと 思わない			
▼時系列 結果	凡例								
2014年 全体	(n=1438)	9.1	14.1	25.6	30.1	21.2		23.1	51.3
性別	男子	(n= 722)	7.0	13.8	27.3	31.4	20.6	20.8	52.0
	女子	(n= 716)	11.1	14.3	23.9	28.8	21.8	25.5	50.6

※この項目に関しては2014年のみ取得

【海外で働きたい理由・働きたいと思わない理由】

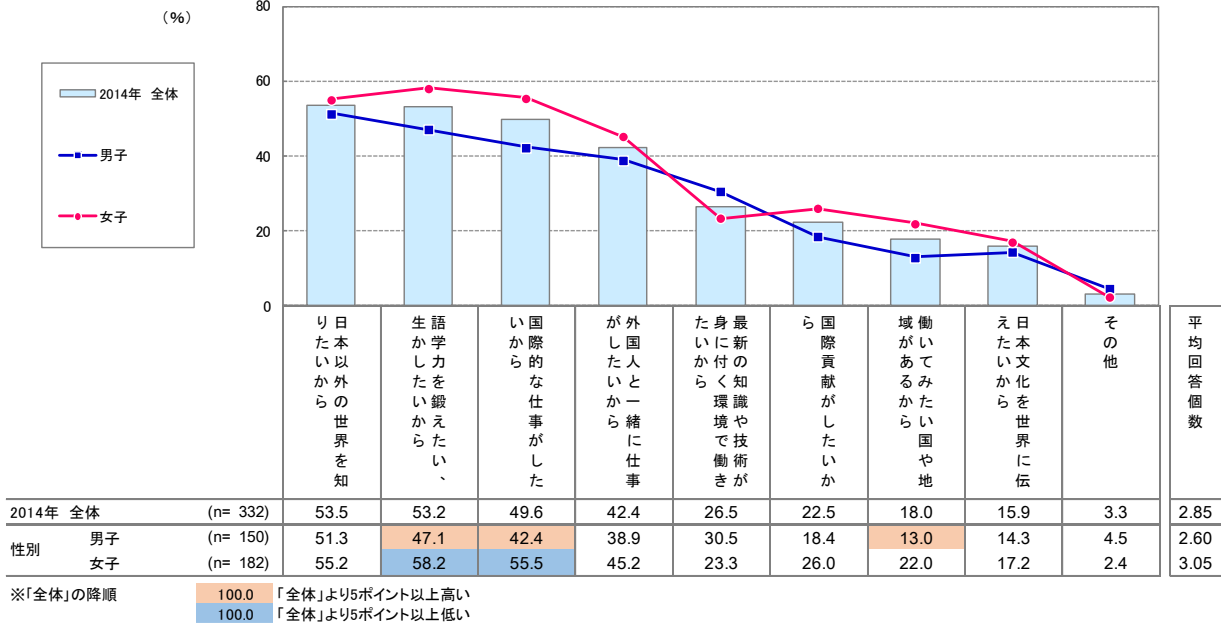
■ 将来海外で働きたいと思わない理由は「語学力不足」と「日本への愛着」。

- ・ 海外で働きたいと思う理由

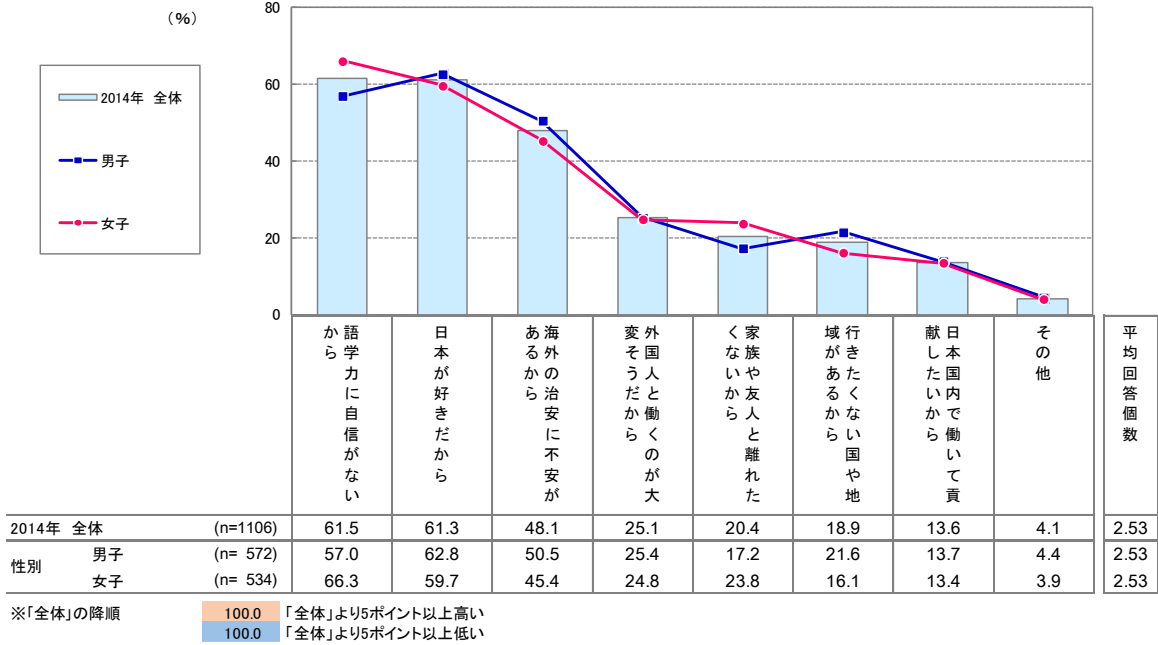
1位 日本以外の世界を知りたいから（53.5%）
2位 語学力を鍛えたい・生かしたいから（53.2%）
3位 国際的な仕事がしたいから（49.6%）
- ・ 男女別にみると、女子は1位が「語学力を鍛えたい」（58.2%）、2位は「国際的な仕事がしたい」（55.5%）となっており、この2項目が全体値より高い。
- ・ 海外で働きたいと思わない理由

1位 語学力に自信がないから（61.5%）
2位 日本が好きだから（61.3%）
3位 海外の治安に不安があるから（48.1%）

■ 海外で働きたいと思う理由（将来海外で働く意向：「働きたいと思う」該当／複数回答）



■ 海外で働きたいと思わない理由（将来海外で働く意向：「働きたいと思う」非該当／複数回答）



■ 地元の学校に進学したいと考える高校生は46%と、
地元を出たいと考える高校生（28%）を上回る。

- ・ 地元の学校に進学したい：45.5% > 地元を出たい：27.7%
- ・ 高校所在エリア別にみると、大都市圏は「地元に残りたい」（55.6%）が全体値より高い。

■ 進学する際の地元志向（全体／単一回答）

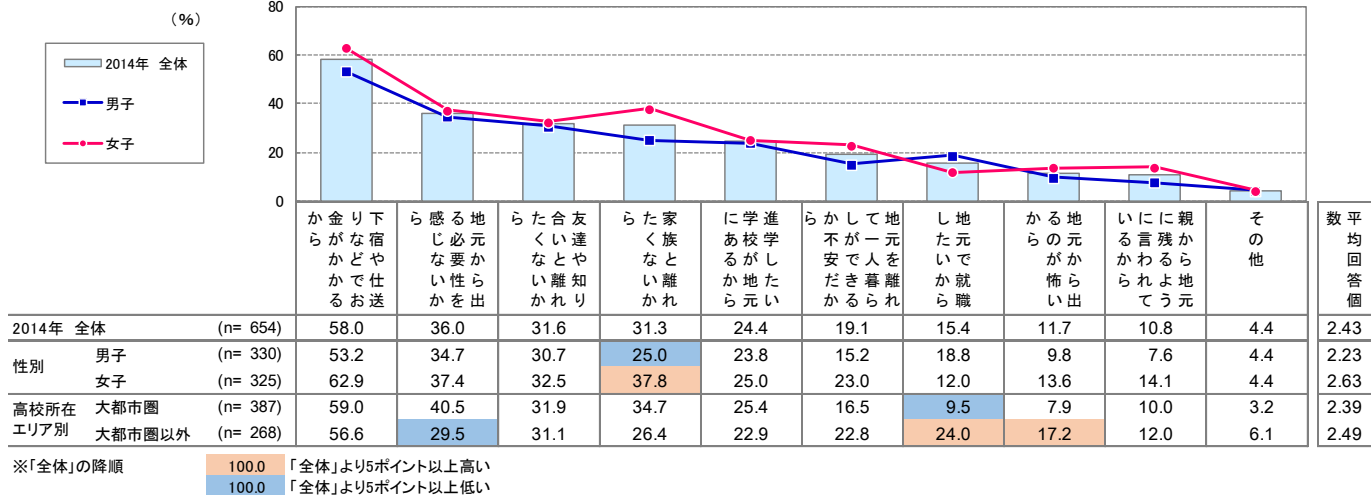
		地元に残りたい計		どちらでもよい	地元を田たい計		地元に 残りたい ・計	地元を 出たい ・計	
		ぜひ地元に残りたいと思っている	できれば地元に残りたいと思っている		できれば地元を出たいと思っている	ぜひ地元を出たいと思っている			
凡例									
2014年 全体		(n=1438)	23.0	22.5	26.8	14.2	13.5	45.5	27.7
性別	男子	(n= 722)	23.1	22.6	31.1	11.4	11.8	45.7	23.3
	女子	(n= 716)	22.9	22.4	22.5	17.0	15.2	45.3	32.1
高校所在 エリア別	大都市圏	(n= 696)	30.0	25.5	30.1	7.5	6.9	55.6	14.4
	大都市圏以外	(n= 742)	16.4	19.7	23.7	20.4	19.7	36.1	40.2

※リリースグラフ内の県規模別の定義は下記の通り。
大都市圏：東京・神奈川・千葉・埼玉・愛知・大阪・京都・兵庫の合計 大都市圏以外：左記以外の合計

■ 地元に残りたい理由トップは「経済的理由」
次いで、「出る必要性を感じない」「友人や家族と離れたくない」

- ・ 地元に残りたいと思う理由
 - 1位 下宿や仕送りなどでお金がかかるから (58.0%)
 - 2位 地元から出る必要性を感じないから (36.0%)
 - 3位 友達や知り合いと離れたくないから (31.6%)
- ・ 男女別にみると、1位は経済的理由で共通だが、2位は男子は「地元から出る必要性を感じない」 (34.7%)、女子は「家族と離れたくない」 (37.8%)
- ・ 高校所在エリア別にみると、大都市圏以外のエリアは、「地元で就職したい」 (24.0%)、「地元から出るのが怖い」 (17.2%) が高い。
- ・ 地元を離れたいと思う理由
 - 1位 新しい土地で新しい経験をしたいから (46.4%)
 - 2位 1人暮らしがしたいから (38.2%)
 - 3位 行きたい学校が地元にはなかったから (34.1%)
- ・ 高校所在エリア別にみると、大都市圏以外のエリアは、「学びたい分野を学べる学校が地元にはなかった」 (33.4%) が高い。

■ 地元に残りたいと思う理由 (進学の際の地元志向:「地元に残りたい」該当/複数回答)



■ 地元を出たいと思う理由 (進学の際の地元志向:「地元に残りたい」非該当/複数回答)

